

# 令和5年度 三重県 英語教育改善プラン

## 目標

外国語によるコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成  
 ～英語による言語活動の充実・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用・学校種間連携の充実～

### 1. 現状

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標  
 (公表)R3 39.2% → R4 59.1%  
 (把握)R3 61.7% → R4 86.8%
- ②授業における、児童の英語による言語活動の時間の割合(75%以上)  
 (第5学年)  
 R3 50.9% → R4 56.1%  
 (第6学年)  
 R3 52% → R4 56.5%
- ③外国語等におけるICT機器の活用状況  
 (発話や発音を録音)  
 R3 59.4% → R4 67.8%

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標  
 (公表)R4 59.1% (把握) 86.8%
- ②学習者用デジタル教科書の活用  
 効果的な活用方法の実践例の発信
- ③小中連携の実施  
 R3 71.8% → R4 68.2%  
 (全国 75.5%)
- ④新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合  
 R2 20.4% → R4 15.9%

### 2. 分析

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の意義と効果について、指導主事会で研修を実施し、学校への指導を要請。英語通信を通して教員へその活用を発信。
- ②教員対象の研修会、英語通信、指導主事会での研修会等で、「英語による言語活動」の周知の徹底。
- ③公開授業、通信、研修会等で1人1台端末の実践例を発信。

①教員対象の研修会の実施が不十分。地域差が大きく、支援が必要な市町への指導不足。指導主事会での研修会や通信でその意義を発信したが、県内に十分に浸透させることができなかった。

②実践事例の発信が不十分。通信や研修動画で発信はしたが、実践例が少ない。県内の優れた実践を汲み取れていない。

③地域差が大きい。実施できている市町の取組の発信が不十分。課題がある市町への支援が不十分。

④英語能力向上の重要性の周知が不徹底。

### 3. 施策・事業

- ①市町等指導主事への指導の継続を依頼。効果について通信等で引き続き周知。
- ②言語活動（パフォーマンステスト等）の好事例を指導主事会で情報交換、通信や動画研修にて県内に発信。テーマ別、短・長時間別研修等、教員のニーズにあう研修の実施し、更なる授業改善を目指す。
- ③ICTの効果的な活用の仕方について、指導主事会で情報交換。通信や研修動画で県内に発信。

①年度初めに、教員対象の「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の効果についての研修会を実施。指導主事会や通信等で好活用事例を発信。学校訪問等で指導・助言。

②指導主事会にて効果的な実践例について情報交換。学習者用デジタル教科書をテーマにした公開授業の実施。通信や研修動画にて、好事例の発信。

③小中連携が不十分な市町等教委へ県教委が支援し、学校（中学校区）指導を行う。該当市町を参加対象にした「小中連携チーム」の立ち上げ。パフォーマンステスト・スモールトーク等の連携を柱に各校種で公開授業を行い、該当市町内教員の積極的な参加を促す。また、取組が進んでいる地域の具体的な取り組み方を指導主事会にて情報交換。

④CEFR B2相当以上に加え、CEFR B1レベルにおいても、新規採用者試験において加点制度を導入。また、大学説明会や教職ガイダンス等を利用して英語能力向上の重要性を周知し、英語免許状所有者、英語資格取得者の増加を図っていく。

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

# 令和5年度 三重県英語教育改善プラン

## 目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成（生徒の英語力 CEFR A1レベル相当以上 50%以上）  
～英語による言語活動の充実・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用・学校種間連携の充実～

### 1. 現状

- ①生徒の英語力  
R3 42.8 % → R4 47.7%
- ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標  
(公表) R3 65.8% → R4 70.3%  
(把握) R3 63.1% → R4 81.1%
- ③授業における英語担当教師の英語使用状況  
(発話の半分以上を英語で行う)  
R3 66.0 % → R4 69.5 %

- ①小中連携の実施  
R4 68.2%(全国 75.5%)
- ②生徒の英語力  
R4 47.7% (全国49.2%)
- ③「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標  
(公表) R4 70.3%  
(把握) R4 81.1%
- ④生徒の英語による言語活動の割合 R4 68.3% (全国74.5%)
- ⑤教師の英語力(CEFR B2相当以上)  
R4 44.5% (全国 41.6%)
- ⑥授業における、英語担当教師の英語使用状況  
R4 69.5%(全国74.4%)

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

### 2. 分析

- ①授業における生徒の英語による言語活動の割合の増加、授業における教師の英語使用状況の増加など、生徒が英語にふれる機会が増加したため。
- ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定する意図や効果についての研修を市町等指導主事対象に実施し、指導を依頼。小中教員向けの英語通信にて、その有効活用について発信。
- ③教員・指導主事対象の研修会、学校訪問、英語通信等にて、教師が英語を話して授業を行う好影響について周知。

- ①地域差が大きい。実施できている市町の取組の発信が不十分。
- ②教師の生徒の英語力を判断する差が顕著。CEFR A1相当以上と判断する情報不足。授業・学習改善の必要性。
- ③教員対象の研修会の実施が不十分。地域差が大きく、支援が必要な市町への指導不足。
- ④研修会や通信等での周知が浸透できなかった。
- ⑤英語力を伸ばす研修会が継続的にできなかった。年間を通して、サポートできる研修の未実施。
- ⑥教師間格差・学校間格差・地域間格差がある。英語で授業をする効果が浸透できなかった。

### 3. 施策・事業

- ①言語活動（パフォーマンステスト等）の好事例を指導主事会で情報交換、通信や動画研修にて発信。テーマ別、短・長時間別研修等、教員のニーズにあう研修の実施。コンテスト形式による、生徒が英語を発信できる場の提供。
- ②③市町等指導主事への指導の継続を依頼。効果について通信等で引き続き周知。

- ①小中連携が不十分な市町等教委へ県教委が支援し、学校へ指導を行う。該当市町を参加対象にした「小中高連携チーム」の立ち上げ。パフォーマンステスト・スモールトーク等の連携を柱に各校種で公開授業を行い、該当市町内教員の積極的な参加を促す。また、取組が進んでいる地域の具体的な取り組み方を指導主事会にて情報交換。
- ②外部試験等を悉皆で実施していない市町の教員が、客観的にCEFR A1レベル相当以上の英語力を判断できる情報を発信。数種類のテーマ別教員対象研修を実施し、更なる授業改善を目指す。
- ③年度初めに、教員対象の「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の効果についての研修会を実施。指導主事会や通信等で好活用事例を発信。学校訪問等で指導・助言。
- ④引き続き研修会での周知、学校訪問での指導。指導主事会で情報交換し、優れた実践を通信等で発信。
- ⑤年間数回実施する継続的な研修を行い、支援を行う。国の外部試験減額制度の利用の推奨。「先導的なオンライン研修」を呼びかける等、教員の研修の機会を確保する。英語通信にて、「教師の英語学習例」のコラムを掲載。
- ⑥英語で授業をする効果の発信の継続。学校訪問での指導・助言。市町等指導主事との連携。研修や動画、公開授業を通して好事例を発信。

# 令和5年度 三重県 英語教育改善プラン

## 目標

パフォーマンステストの質の向上とその成果の普及により、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成（生徒の英語力 CEFR A2レベルの割合50%）

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ①**英語担当教員の英語力**  
（CEFR B2レベル以上を取得している教師の割合）  
R3 76.9%→R4 78.4%
- ②**生徒の英語力**（CEFR A2レベル以上を取得およびCEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合）  
R3 41.8%→R4 45.5%

#### 未だ改善が必要な点

- ①**小中連携の実施**  
小学校との連携  
R3 9.4%→R4 18.9%  
中学校との連携  
R3 11.3%→R4 11.3%
- ②**授業における、生徒の英語による言語活動の割合**  
目標70%→R4 56.4%
- ③**英語担当教員の授業での英語使用状況**  
目標70%→R4 48.1%

### 2. 分析

- ①スピーキングテストおよびライティングテスト実施割合が、R3 24.3%からR4 53.5%に上昇をし、教師および生徒の授業での英語によるコミュニケーションの質が向上した。
- ②生徒がICT端末を用い発表や話す活動をしている割合がR3 66%からR4 88.7%に増加し、効率よく英語を使用する機会を増加。

- ①わずかに連携の割合は増加したものの以前低く割合のため、これまでの小中高連携の取組についての成果の発信や地域に合わせた支援が必要。
- ②目標を達成してる学校での取組の発信および各校に合わせて支援が必要。
- ③教員の更なる英語力向上と授業づくりについて支援が必要。

### 3. 施策・事業

- ①小中との連携を意識しながら、言語活動（パフォーマンステスト等）の実践の共有を進め。各校での実践例をSNS等を活用して普及し、更なる教員、生徒の英語力向上につなげる。
  - ②授業づくり研修の講義や公開授業を通して効率的に授業を進行するためのICT活用や思考を深め、4技能を伸ばすためのICT活用について研究・開発を進める。
  - ③三重県立高校生オンライン海外交流では、海外の高校生とオンラインで文化交流やSDGsに関するテーマ等についてディスカッションを行う。
- ①小中との連携を実施できていない学校に対する支援。これまでの小中高連携研究・開発チームの取組を引き続き別の地域でも実施、また実践例の普及。
  - ②授業づくり研修を通して生徒の英語による言語活動の例や方法を共有し、各校にあった活動の提案・指導。
  - ③高校教員向け英語力向上研修を放課後の時間を活用し年に3回程度実施。